

第2回 能登地区神経筋難病ネットワーク 地域連携の会を開催して

副院長 横地 英博

12月10日（土）に、のと里山空港生涯学習センターにおいて能登地区神経筋難病ネットワーク地域連携の会主催の第2回講演会を開きました。当日は雪の舞う悪天候にかかわらず61名の方に参加いただきました。

能登地区神経筋難病ネットワーク地域連携の会は、恵寿総合病院、公立能登総合病院、七尾病院の神経内科医が中心となり能登地区の神経筋難病患者の医療・介護の向上のためネットワークをつくる目的で結成されました。これは高齢化の進む能登地区において神経筋難病の増加がみられること、神経学会専門医が少ないこと、平成27年に難病新法が施行され指定難病が拡大されたためです。

一般演題は森永章義七尾病院神経内科医長から「当院での筋萎縮性側索硬化症への取り組み—『やっぱり家に帰りたい』を支援する—」という演題でした。筋萎縮性側索硬化症患者が能登地区に20人前後おられると推定されること、胃瘻や非侵襲的陽圧呼吸などの対症療法があり、患者や家族のもつ不安を周囲の医療、介護スタッフが分担することが自宅での生活につながることを説明されました。続く講演では七尾病院大矢陽介理学療法士から「在宅でも出来る！～リハビリテーション活動と肺炎予防～」という題で難病患者に対するリハビリの基本、在宅での運動のポイント、肺炎予防のための呼吸筋エクササイズ、バランス練習、姿勢管理について具体的な在宅リハビリテーションの紹介がありました。

講演会終了後のアンケートを一部紹介します。「在宅支援の取り組みに本人、家族の思いを知ること、サポート体制作りの必要性が理解できた」、「ALS（筋萎縮性側索硬化症）の症状と対応を今一度学習することができた」、「各場面でのリハビリの必要性や方法を勉強できた」などです。

今後能登中部と北部で年1回ずつ開催を予定しており、率直なご意見を宜しくお願いいたします。

